

外観品質に優れる オオバ新品種「ひたちあおば」の育成

本県のオオバは、行方市を中心として周年栽培が行われています。しかし、現地では系統が統一されておらず、品質のバラツキが大きいことが問題となっていました。そこで、県内の栽培に適し品質が優れる新品種「ひたちあおば」を育成しました。「ひたちあおば」は、現地在来系統と比べて、葉形や鋸歯の形状が良く、外観品質に優れています。

● 葉の外観品質 ●

葉形は、整ったハート型で、「北浦 No.1」に比べ表面に光沢があり、鋸歯がやや深く、小鋸歯発生頻度が高い等、外観形質に優れます。また、香りが良く、苦味が弱い等、品質も優れます。

平成 17 年度からの園芸研究所および現地試験の結果、有望と認められ、平成 21 年度に品種登録を出願しました。

※「北浦 No.1」：現地在来系統の中から選抜した優良系統

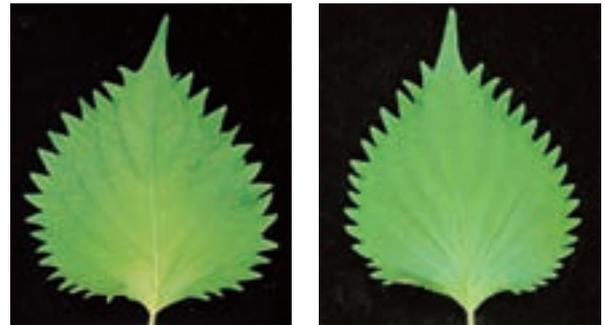


写真1 葉の外観
左：「ひたちあおば」 右：「北浦 No.1」(対照)

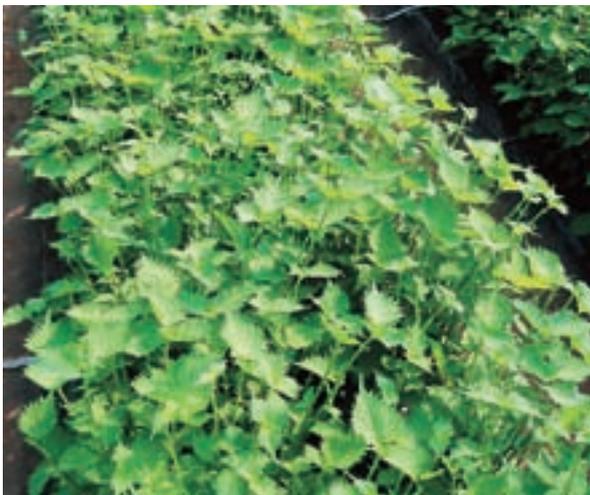


写真2 「ひたちあおば」の生育状況

● 生育の特徴 ●

草丈は「北浦 No.1」、「現地在来系統」よりやや低く、節数は「北浦 No.1」、「現地在来系統」よりやや少ないですが、有効茎数（収穫可能な葉を付ける茎の数）は、やや多い傾向が見られます。

また、抽台は、「現地在来系統」よりわずかに発生しやすいですが、「北浦 No.1」より発生しにくく、冬作での適用性も認められます。

表 「ひたちあおば」の特性（冬作）

	草丈 (cm)	節数 (節)	節間長 (cm)	有効茎数 ¹⁾ (本)	抽台率 (%)	調査日
ひたちあおば	67.1	11.2	6.0	11.9	49.6	H19. 2.7
北浦No.1	76.3	12.2	6.2	10.8	68.3	
現地在来	81.1	12.0	6.8	9.0	36.3	

H18. 9. 5播種、10. 2定植 1) 収穫可能な葉を付ける茎の数

● 栽培上の留意点 ●

草勢が低下すると収量が減少するので、生育初期には強度の摘葉を避け、草勢を維持してください。

また、冬作では抽台しやすいので、電照を行うとともに、施設内の気密性を高め、保温に努めてください。



写真3 「ひたちあおば」の抽台始め